

知的障害特別支援学校における自立活動の個別の指導計画作成プロセスの充実に向けた研究(2)

「課題整理・目標設定シート」を活用した「自立活動の時間における指導（グループ指導）」の学習内容の設定

○清水 謙二

（大阪府立佐野支援学校）

KEY WORDS: 学習指導要領 自立活動の時間における指導 個別の指導計画作成プロセス

1. はじめに

改訂された「特別支援学校学習指導要領」では、自立活動における個別の指導計画作成の手順の中に、「指導すべき課題」を整理する手続きを導入し、指導目標の設定に至る判断の根拠を記述して残すことが新たに示された。また、前述の指導目標設定に至るプロセスは、複数の教員で検討するシステムの構築が必要であることも明示された。

研究(1)では、自立活動の目標設定に至るプロセスを明確にするために導入した「課題整理・目標設定シート（以下、設定シート）」を活用することで、子どもの実態把握や指導目標・指導内容の設定、指導計画の作成に効果があることが明らかになった。また、チェックリストの観点・項目の見直し、設定シートの様式の修正、経験の少ない教員への支援も含めた研修方法の検討、設定シートによる話し合いが効率的になるような運用スケジュールの作成(支援計画の検討時期とのリンク)等の課題を解決していくことで、設定シートをより効果的に活用できる(実態把握から目標設定に至るプロセスの明確化、指導計画の作成システムの構築等)可能性が示唆された。

そこで本研究(2)では、「設定シート」を活用し、自立活動の時間における指導（グループ指導）について、個別の目標をどのようにグループ指導の学習内容に反映させていくか検討することを目的とする。

2. 方法

(1)本校における各学部の「時間における指導」の形態

本校の小学部及び中学部で行っている「時間における指導」のグループ指導について、アセスメントや時数等の指導形態を整理し、Table 1 に示した。

(2)グループ指導の目標及び学習内容の設定方法

「設定シート」を活用し、「時間における指導」のグルーピング方法や目標及び学習内容の設定について、その手続きを整理し Table 2 に示した。また、グループ決定後に「設定シート」の中の「自立活動の実態把握のためのチェックリスト（以下、チェックリスト）」をグループ毎に集約し、目標及び学習内容を設定するための一覧表（例）を Table 3 に示した。

(3)本校は、小学部・中学部・高等部とは別に自立活動指導を専門的に行う部署（「自立活動指導部」以下、「専任部」）があり、その専任部が(1)(2)にどのように関わっているかについても Table 1, 2 に示した。

Table 1 本校の「時間における指導」の形態(R3 年度)

	時数	グループ数	アセスメント	専任部の関わり
小学部	週1時間 (木・2限目)	5グループ 心理的な安定/人間関係の形成/環境の把握/身体の動き/コミュニケーション	「自立活動の実態把握のためのチェックリスト」 「KIDS」	専任部3名が週1時間の「時間における指導」に入り込み、参観・助言・教材提供等を行う
中学部	週2時間 (月・木7限目)	5グループ 健康の保持/心理的な安定/人間関係の形成/身体の動き/コミュニケーション	「自立活動の実態把握のためのチェックリスト」 「S-M社会生活能力検査」	専任部3名が週2時間の「時間における指導」に入り込み、参観・助言・教材提供等を行う
高等部	週5時間 (月～金1限目)	※各クラスで個別課題を設定	「自立活動の実態把握のためのチェックリスト」 「S-M社会生活能力検査」	専任部3名が週2時間の「時間における指導」に入り込み、参観・助言・教材提供等を行う

Table 2 目標・学習内容の設定プロセス(小・中学部)

STEP	手続きの方法	時期	備考
STEP 1 (実態把握)	「課題整理・目標設定シート」の中の「自立活動の実態把握のためのチェックリスト」及び「キャリア教育チェックリスト」を活用し前年度の旧担任が3月にチェック(実態把握)し、「課題整理・目標設定シート」上で区分の決定、課題設定理由の記述、長期目標までを実施し4～6月に新担任が確認・追加・修正する	前年度3月 ～新年度4～6月	ICTを用いて担任(複数)が実施
STEP 2 (グルーピング)	「自立活動の実態把握のためのチェックリスト」でチェックした項目・観点が多い区分や「課題整理・目標設定シート」で前担任が決定した区分を参考にグルーピングを行う	4～6月	校務分掌の各学年の係が実施
STEP 3 (情報整理)	「個別の教育支援計画」「良さ・伸ばしたい点の把握」「その他のアセスメント」等の情報を「課題整理・目標設定シート」上で整理する	5～6月	ICTを用いて担任(複数)が実施
STEP 4 (区分の決定)	前年度の担任が決定した内容を参考にしながら、STEP1～2の情報を「課題整理・設定シート」上で整理し、中心的に取り組む区分(1つ)と関連づけて取り組む区分(1～2つ)、及びその区分において目標設定に必要な項目・観点(3つまで)を選択する	5～6月	ICTを用いて担任(複数)が実施
STEP 5 (課題設定理由の記述) (長期目標の設定)	前年度の担任が記述した内容を参考にしながら、STEP 4で選択した区分や項目・観点について「課題設定の理由」を記述し、「長期目標」を設定する	5～6月	ICTを用いて担任(複数)が実施
STEP 6 (グループ指導における目標・学習内容の設定)	STEP 2で決まったグループ毎に「個別の目標」及び「学習内容」を設定するための話し合いを行う。グループ毎に「中心的に指導する区分」のチェックリストの項目・観点を集約した一覧表(Table 3参照)を参考に目標及び学習内容を設定する	小学部:5月 中学部:23年:6月 中学部1年:9月	話し合いに専任部も参加し助言・一覧表・分掌の係

Table 3 目標・学習内容設定のためのチェックリスト一覧表(例)

グループ名【心理的な安定】	名前	A	B	C	D	E	F
2 心理的な安定							
(1) 情緒の安定に関すること							
気持ちの表出(嬉しいこと・嫌なこと・不安なことを伝える)		◎	○		◎	◎	
リラクセーション(興奮を静めるための場所の活用、手段の獲得)		◎		◎	◎	◎	◎
自己肯定感の向上(成功体験の積み重ね)		◎	○	○	○	○	
情緒安定のための環境改善(生活環境、生活リズム、交友関係等)		○		◎	○		○
(2) 状況の理解と変化への対応に関すること							
状況の的確な理解(得意・不得意、できる・できない等を知る)			○		○	○	
変化する状況の理解→変化に対応した適切な行動			◎	◎	◎	◎	◎
援助の依頼(必要な情報を得る、不安な気持ちを訴える)		◎	◎		◎	◎	○
集団構成や活動内容の工夫(安心して活動に参加するための配慮等)		○				○	
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること							
障害の状態の理解(得意・不得意、できる・できない等を知る)							
熱中できる活動や学習課題づくり(意欲の向上の観点から)		○			○		○
できる活動の拡大(自分でできることを増やす、援助を受けてできることを作る)		○	○	○	○	◎	◎
先輩や仲間との話し合い(ピアカウンセリング)							

3. 結果及び考察

Table 1 より、本校では小学部、中学部、高等部において「自立活動の時間における指導」を設定しているが、同じ課題の子どもをグルーピングして学習しているのは小学部と中学部であることが示されている。また、各学部の「時間における指導」に専任部が入り込んで助言を行っていることも特徴の1つである。Table 2 より、小学部及び中学部の「時間における指導（グループ指導）」の目標や学習内容の設定プロセスにおいて、STEP 1～STEP 6 までの実態把握→グルーピング→情報整理→目標設定に至る判断の根拠の記述→区分の決定→長期目標の設定→グループの学習内容の設定という手続きは、新学習指導要領で示された手続きに従って取り組んでおり、ICT を用いた複数教員による検討システムも導入していることが示されている。また、専任部によるサポート（目標・学習内容設定の話し合いへの参加）は、昨年度までの校務分掌の反省でもその有用性が示されている。さらにその話し合いでは、Table 3 の一覧表から、例えば心理的な安定のグループでは、A～F の子どもについてチェックされた項目・観点を横軸で分析すると、リラクセーション(ACDEF)、自己肯定感の向上(ABCDE)、変化する状況への対応(BCDEF)、できる活動の拡大(全員)等が共通した課題であることがわかり、これらの課題に応じた目標や学習内容を設定することで、個別の目標を明確にししながら、グループで共通した学習内容に取り組むことができるようになって考えられる。今後は「設定シート」による個別の目標設定（自立活動の指導）とグループ指導での個別の目標設定（時間における指導）の妥当性を検証していくことが課題である。（SHIMIZU Kenji）